

経済産業省 平成 17 年度「起業家教育促進事業」

実施報告書

平成 1 8 年 3 月
株式会社 gusiness

目 次

1 .	事業（目的・背景）	1
	1-1 事業名	
	1-2 事業目的	
	1-3 事業内容	
2 .	実施実績	3
	2-1 プログラム名	
	2-2 実施実績	
3 .	実施内容	4
	3-1 『ビジネス体験プログラム～会社をつくってみよう～』概要	
	3-2 授業内容	
	3-3 スケジュール	
	3-4 講師養成講座概要	
	3-5 講師養成講座 授業内容	
	3-6 講師養成講座 スケジュール	
	3-7 ファシリテータ業務報告書	
4 .	考察	32
	4-1 平成 16 年度との相違点	
	4-2 講師養成講座について	
5 .	今後の課題	33
6 .	独自アンケート調査結果（先生）	34
	6-1 「ビジネス体験プログラム」実施について	
	6-2 第一回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について	
	6-3 第二回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について	
	6-4 第三回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について	
7 .	新聞掲載記事	42

1 . 事業（目的・背景）

1-1 事業名

経済産業省 平成17年度起業家教育促進事業
（ビジネス体験プログラムを用いた起業家教育プログラム）

委託者： 経済産業省

受託者： 株式会社 gusiness

1-2 事業目的

将来、起業家精神に溢れた人材が育成・輩出される教育機会が得られるよう、小中高等学校の教育現場に対して起業家教育の普及・定着を図ることは重要である。本事業では、自治体や教育現場に対して、通常の授業内で実施可能な「起業家教育プログラム」によるモデル授業を実施し、当該自治体への起業家教育への理解・定着を図るとともに、周辺自治体及び全国の自治体への反響・波及効果を得ることを目的としている。

1-3 事業内容

『ビジネス体験プログラム～会社をつくってみよう～』

平成 17 年度の本事業では、中・高校生約 1,200 名を対象に、『ビジネス体験プログラム～会社をつくってみよう～』を実施しました。さらに、本プログラムを実施自治体において普及・定着させるために、講師養成に向けたカリキュラムを学校教員向けに実施し、約 50 名の先生を講師として認定させていただきました。

『ビジネス体験プログラム～会社をつくってみよう～』は、大きな可能性を秘めた中・高校生が、計画することの重要性、Plan Do See の体感、擬似体験の繰り返しにより、自ら問題発見し、問題解決への仮説をたてて検証するスキルを身に付けるとともに、価値観の多様性や思考プロセスの重要性を体感することにより、中学校または高等学校における起業家精神の定着を図ることを目的としたプログラムです。

プログラムは、イントロダクション・擬似体験型学習・エンディングの三部構成となっております。

イントロダクション：職業意識の喚起・会社の仕組みについて
擬似体験型学習：gusiness Yatai 版
エンディング：社会が求める人材像について、Plan Do See の大切さ

実施形態は、モデル授業では学校側に弊社認定講師（2 名）を派遣し、1 クラスにつき、二時限の授業時間を三週連続実施し、計六時限の授業を行います。

例： 一週目：イントロダクション&擬似体験型学習（画面説明・デモ）
二週目：擬似体験型学習（計画立案）
三週目：擬似体験型学習（発表・出店・結果考察）&エンディング

また、講師養成講座は、二日間の研修の中で、本プログラムの紹介や導入方法だけでなく、「ファシリテーション」という講義手法についても学びます。

例： 一日目：ファシリテーション理解の基礎講座（講義と演習）
ビジネス体験プログラム演習
二日目：事業性の評価方法について
結果考察の方法について
ソフトウェアのインストールについて

2. 実施実績

2-1 プログラム名

ビジネス体験プログラム ～会社をつくってみよう～

2-2 実施実績

【高等学校】

自治体	学校名	クラス数	人数	
神奈川県	有馬高等学校	1	28	396
	横浜立野高等学校	1	14	
	麻生総合高校	1	14	
	相模原総合高校	11	257	
	商工高等学校	1	15	
	光陵高等学校	1	37	
	霧が丘高等学校	1	20	
	大師高等学校	1	11	
千葉県	千葉商業高等学校	2	65	287
	鶴舞桜ヶ丘高等学校	1	24	
	銚子商業高等学校	1	29	
	一宮商業高等学校	2	77	
	成田西陵高等学校	2	52	
	多古高等学校	1	40	
静岡県	静岡商業高等学校	1	41	108
	島田商業高等学校	1	31	
	沼津商業高等学校	1	36	
愛知県	愛知商業高等学校	1	37	111
	古知野高等学校	1	36	
	鶴城丘高等学校	1	38	
愛媛県西条市	丹原高等学校	1	21	34
	東予高等学校	1	13	
合計		35		936

【中学校】

自治体	学校名	クラス数	人数	
千葉県	多古中学校	1	38	38

【講師養成講座】

	実施期間	クラス数	参加人数
第一回講師養成講座	平成 17 年 8 月 11,12 日	1	19
<参加自治体> 千葉県、宮城県、愛知県、神奈川県			
第二回講師養成講座	平成 17 年 12 月 26,27 日	1	22
<参加自治体> 千葉県、神奈川県、静岡県			
第三回講師養成講座	平成 18 年 1 月 5,6 日	1	5
<参加自治体> 西条市			
合計		3	46

3 . 実施内容

3-1 『ビジネス体験プログラム ~会社をつくってみよう~』概要

イントロダクションの講義においては、生徒たちが漠然と理解している「会社」についての定義を示すと共に、会社を評価する指標の多様性、そして指標の変化による順位の入替わりについて事例を用いて説明します。

擬似体験型学習プログラム（gusiness Yatai 版）では、誰もが一度は体験したことのある縁日を題材とし、屋台を出店する計画を立案、事業内容を発表、出店（シミュレーション）など通じて、グループ討議、情報検索力、チームワーク、プレゼンテーション力、状況変化への対応力、仮説・検証力などについて学習します。特に重視している項目は以下の三点です。

自由な発想をビジネスプランにする力を身につけること

正解はないということを知り、仮説・検証を繰り返し、最適な解を求める能力を体得すること

擬似体験を通して、目標設定、計画立案、実行、結果考察という創造プロセスを確認すること

最後に、エンディングで、Plan Do See の大切さを、シミュレーション結果と照らし合わせながら、振り返りの講義を実施し、終了となります。

3-2 授業内容

イントロダクション

会社って何だろう？

身近な会社を例にとりながら講義を進めます。上場（株式公開）の意味についてなども簡単に触れ、会社の概要について学びます。

日本で一番大きな会社は？

売上高、利益高、従業員数など評価指標の変化に伴い順位が変動することを学びます。生徒たちが周知している会社などを事例にあげ、それぞれの会社がどのような事業を実施してきたかなどを話しながら、会社経営について学びます。

イントロダクションは、授業環境により冒頭で講義する場合と、疑似体験学習の間に挟みながら講義する場合があります。

疑似体験型学習（ビジネス・シミュレーション）

画面説明

情報検索の画面、計画立案の画面などの操作説明をしながら、考えるポイントを示唆していきます。パソコンにアドバイス画面を設け、生徒たちが独自に検索することが出来るようになっています。

サンプルデータを用いた出店

全体の流れを把握するため、サンプルデータを用いてシミュレーションを行います。

出店計画立案

各グループ毎に出店計画を立案します。与えられる情報はグループ共通とし、自分達の目標を討議しながら、事業性の高い計画を立案していきます。消費者でも従業員でもなく、経営者の視点を体験できるよう、講師はファシリテートしていきます。個人の決定ではなく、グループとしての意思統一を図ることから、話し合うこと、説得すること、納得することなど、他者との協働を養成します。

発表（プレゼンテーション）

事業性を評価するための発表を行います。計画立案の内容に加え、説得力のあるプレゼンテーション技法について学び、グループ内で話し合ったことを伝えることの大切さについて体感します。他グループの発表を聞くなかで、自分達と異なる視点やアイデアを知り、考えの多様性を体感します。

出店（シミュレーション）

評価を受けた後に、出店（シミュレーション）に入ります。途中の意思決定は

4 回あり、結果を考察しながら進め、最終結果が出たところで、グループ毎の振り返りを行います。

結果考察

他グループと自分達の状況を比較しながら講師がグループの課題を指摘していきます。売上高、利益高、販売数、手元残金、予実差異などの比較から、指標を変えると一番が変わることを実感し、さらには自分達が何を目標として計画立案を行い出店したのかを考えます。

修正計画立案

出店結果をもとに修正計画を立案します。従業員人数、販売価格、初期仕入数量、損益計算書の予測を再検討しながら、より良い計画へと改善しています。

出店（シミュレーション）

修正計画による出店を行います。実施方法は1回目と同じですが、1回目で記録した情報をもとに作戦を考えながら進めます。

結果考察

1 回目のグループ比較と同様に、売上高、予実差異などの結果を比較し、修正計画を行ったことの変化が結果にどのように表れたのかを確認します。

エンディング

評価について

モノサシを変える、視点を変えることを体感したことを踏まえて、企業での評価について話をします。

目標を持つことの大切さ

結果はあるけれど正解はないということを知り、その中で自分の目標をどう示すのかを考え、再度、仮説・検証を繰り返すことで、Plan Do See の重要性を学びます。

3-3 スケジュール

三日間の授業の場合

【一日目】

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・授業の流れを解説 ・テキストの確認	聴講	司会 (挨拶)	挨拶
0:05～0:30 (25分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 画面説明 操作説明	聴講		説明
0:30～0:50 (20分)		サンプルデータで出店 出店結果の考察	演習		サポート
0:50～1:00 (10分)	休憩				
1:00～1:20 (20分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 画面説明 操作説明	演習		サポート
1:20～1:25 (5分)		・完全版を使用した演習 全体の流れの説明 完全版の説明	聴講		説明
1:25～1:45 (20分)		・出店計画の立案	演習		サポート
1:45～1:50 (5分)	まとめ	・一日目のまとめ ・二日目のまとめ	聴講		講義

【二日目】

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・二日目の流れを解説 ・一日目の確認	聴講	司会 (挨拶)	説明
0:40～0:50 (40分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 出店計画の立案	演習		サポート
0:40～0:50 (10分)		・発表の準備 発表方法について解説 発表準備	演習		講義
0:50～1:00 (10分)	休憩				
1:00～1:45 (45分)	ビジネス体験 プログラム	・発表 各グループの発表 講師からの質疑応答	発表		質疑応答
1:45～1:50 (5分)	まとめ	・二日目まとめ ・三日目の内容説明	聴講		講義

【三日目】

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・三日目の確認	聴講	司会 (挨拶)	説明
0:05～0:10 (5分)	ビジネス体験 プログラム	・発表後の振り返り プレゼン内容の講評	聴講		講義
0:10～0:25 (15分)		・完全版を使用した演習 振り返りシートの解説 出店1回目	演習		サポート
0:25～0:40 (15分)	イントロダクション	・講義 会社って何だろう？ 日本で一番大きな会社は？	聴講		講義
0:40～0:50 (10分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 グループ比較 振り返り	演習 聴講		解説 講義
0:50～1:00 (10分)	休憩				
1:00～1:10 (10分)	ビジネス体験 プログラム	・出店計画の修正 修正計画を立案する	演習		サポート
1:10～1:25 (15分)		・完全版を使用した演習 出店	演習		サポート
1:25～1:35 (10分)	エンディング	・講義 会社と個人 自分のモノサシを探して	聴講		講義
1:35～1:40 (5分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 グループ比較 振り返り	演習 聴講		解説 講義
1:40～1:50 (10分)	まとめ	・アンケート記入 ・まとめ	講義		聴講

二日間の授業の場合

【一日目】

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・授業の流れを解説 ・テキストの確認	聴講	司会 (挨拶)	挨拶 説明
0:05～0:30 (25分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 画面説明 操作説明	聴講		説明
0:30～0:50 (20分)		サンプルデータで出店 出店結果の考察 出店1回目	演習		サポート 講義
0:50～1:00 (10分)	休憩				
1:00～1:20 (20分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 サンプルデータで出店 出店結果の考察	演習		サポート
1:20～1:25 (5分)		・完全版を使用した演習 全体の流れの説明 完全版の説明	演習		説明
1:25～1:50 (25分)		出店計画の立案	演習		サポート
1:50～2:00 (10分)	休憩				
2:00～2:25 (25分)	ビジネス体験 プログラム	出店計画の立案	演習		サポート
2:25～2:50 (10分)	まとめ	・一日目のまとめ ・二日目の内容説明	聴講		講義

【二日目】

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・二日目の流れを解説	聴講	司会 (挨拶)	説明
0:05～0:15 (5分)	ビジネス体験 プログラム	・発表の準備 発表方法について解説 発表準備	聴講		講義
0:15～0:50 (35分)		・発表 各グループの発表 講師からの質疑応答	発表		質疑応答
0:50～1:00 (10分)	休憩				
1:00～1:30 (30分)	ビジネス体験 プログラム	・発表 各グループの発表 講師からの質疑応答	発表		質疑応答

1:30 ~ 1:35		・完全版を使用した演習	聴講		解説
(5分)		振り返りチェックシートの 解説			
1:35 ~ 1:50 (15分)		・完全版を使用した演習 出店	演習		サポート
1:50 ~ 2:00 (10分)	休憩				
2:00 ~ 2:05 (5分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 グループ比較 振り返り	演習 聴講		解説 講義
2:05 ~ 2:15 (10分)		・出店計画の修正 修正計画を立案する	演習		サポート
2:15 ~ 2:30 (15分)		・完全版を使用した演習 出店	演習		サポート
2:30 ~ 2:40 (10分)	エンディング	会社と個人 自分のモノサシを探して	聴講		講義
2:40 ~ 2:45 (5分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 グループ比較 振り返り	演習 聴講		解説 講義
2:45 ~ 2:50 (5分)	まとめ	・アンケート記入 ・まとめ	聴講		講義

終日の授業の場合

タイムスケジュール	テーマ	授業内容	生徒	先生	gusiness
0:00～0:05 (5分)	オリエンテーション	・挨拶 ・授業の流れを解説	聴講	司会 (挨拶)	説明
0:05～0:30 (25分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 画面説明 操作説明	演習		サポート
0:30～0:50 (20分)		サンプルデータで出店 出店結果の考察	演習		サポート 講義
0:50～1:00	休憩				
1:00～1:20 (20分)	ビジネス体験 プログラム	・デモ版を使用した演習 サンプルデータで出店 出展結果の考察	演習		サポート
1:20～1:25 (5分)		・完全版を使用した演習 全体の流れの説明 完全版の説明	聴講		説明
1:25～1:50 (25分)		出店計画の立案	演習		サポート
1:50～2:00	休憩				
2:00～2:25 (25分)	ビジネス体験 プログラム	出店計画の立案	演習		サポート
2:25～2:35 (10分)		・発表の準備 発表方法について解説 発表準備	聴講		講義
2:35～2:50 (15分)		・発表 各グループの発表 講師からの質疑応答	発表		質疑応答
2:50～3:00	休憩				
3:00～3:50 (50分)	ビジネス体験 プログラム	・発表 各グループの発表 講師からの質疑応答	発表		質疑応答
3:50～4:00	休憩				
4:00～4:15 (15分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 出店	演習		サポート
4:15～4:30 (15分)	エンディング	・講義 会社と個人 自分のモノサシを探して	聴講		講義
4:30～4:40 (10分)	ビジネス体験 プログラム	・完全版を使用した演習 グループ比較 振り返り	演習		解説 講義
4:40～4:50 (10分)	まとめ	・アンケート記入 ・まとめ	聴講		講義

3-4 講師養成講座概要

「起業家教育促進事業」の事業目的にも掲げられている「起業家マインドを育むような良質な教育プログラムの普及・定着」を目的に、学校の先生方にも講師養成講座を受講していただき、弊社講師が実際に使用している「ファシリテーション」という講義手法を習得し、gusiness Yatai 版を授業の中で使用できるように操作手順なども講義します。受講後は、「gusiness 認定講師」として、コンテンツを自由に使用して授業に活かしていただきます。

講師養成講座は、普及・定着プランの中核をなすものですが、平成 17 年度においては、予算と時期の関係から三回の実施のみとなりました。そのうち二回は経済産業省会議室で実施させていただき、最後の講座は 1 月に開催した愛媛県西条市ですが、近隣の市町村からの参加もありました。なかでも愛媛県立大洲高校は、1 月に認定講師の先生が授業に挑戦し、弊社からアシスタントを派遣して支援させていただきました。今年度の講師養成講座は主に高校の先生を対象としましたが、一部には中学校の先生、教育委員会の方なども受講しております。

3-5 講師養成講座 授業内容

【一日目】

初めに弊社で推奨している講義方法（ファシリテーション）について解説し、グループに分かれての実践的な演習を行います。ファシリテーションとは、答えを教えるのではなく、生徒もしくは仲間の意見を引き出しながら、結論へ導くという手法です。

ファシリテーション講義の後、本プログラムを初めて体験する先生もいらっしゃるから、本プログラムの中核である「gusiness Yatai 版」を全員に体験していただきます。体験では 3 名から 4 名のグループになり、生徒と同様の進行で計画立案から結果考察までを実施します。本プログラムを授業で参観した先生も実際に体験することで、参観とは違った要素の気づきがあります。また、生徒の立場を体験することで、学ぶポイントなども理解することができます。

【二日目】

初日の体験を踏まえ、二日目では講師側が行っている内容について解説します。先生が講師となり授業を行うときにポイントとなる「発表時の質疑応答」「計画の事業性評価」「結果考察」についてサンプルデータを用いて演習を実施します。

発表時の質疑応答については、計画の事業性を評価するための関連項目について質問することなどを説明します。具体的には、「ターゲットの選択理由」「商品の特徴」「価格の設定理由」などを質問するなかで、生徒の自由な発想を計画化できているのか、矛盾はないのかなどを確認します。評価については、サンプルデータを用いて行います。初めは個人で評価を行い、次に 3 から 4 名のグループ議論となります。個人毎・グループ毎に重視すべきポイントが異なるため、評価にもバラツキが生じますが、こうした価値観の多様性を体験しながら、実際の講師が評価した結果なども参考にし、理解を深めます。最後に結果考察ですが、グループ比較のグラフの捉え方や説明方法などについて説明します。結果考察において顕著に表れる傾向は比較的限定されております。

後半は、授業の準備という視点から、学校における本ソフトウェアのセットアップ方法

について説明しますが、中にはパソコンを得意としない先生もいらっしゃいますのでトラブルが発生した際の対処方法についても一通り説明をします。最後に質疑応答の時間を設け、二日間のプログラムが終了となります。

3-6 講師養成講座 スケジュール

一日目	タイムスケジュール	テーマ	内容	担当
ガイダンス	10:00～10:30 (30分)	オリエンテーション	・講座の目的と内容について	講師
講義	10:30～11:00 (30分)	<基礎編> ファシリテーションを 理解する	・ファシリテーションとは	講師
講義	11:00～11:30 (30分)		・ファシリテーションを体験する	説明
演習	11:30～12:00 (30分)		・授業でのファシリテーション ・質疑応答のファシリテーション	グループ
昼食	12:00～13:00 (60分)	休憩		
演習	13:00～16:30 (150分)	<基礎編> ビジネス体験プログラムを 理解する	・クライアント側の操作説明 ・クライアント側で体験	グループ
講義	16:30～17:00 (30分)	まとめ	・一日目のまとめ	講師

二日目	タイムスケジュール	テーマ	内容	担当
ガイダンス	10:00～10:20 (20分)	オリエンテーション	・一日目の復習	講師
講義	10:20～11:00 (40分)	<応用編> ビジネス体験プログラ ムを習得する	・ビジネス体験プログラムの流れ ・クライアント側のポイント	講師
演習	11:00～12:00 (60分)		・サーバー側の操作	グループ
昼食	12:00～13:00 (60分)	休憩		
講義	13:00～14:00 (60分)	<応用編> ビジネス体験プログラ ムを習得する	・サーバー側での評価(発表) ・サーバー側での評価(計画立案)	講師
講義	14:00～15:00 (60分)		・サーバー側での評価(振り返シート) ・サーバー側での評価(結果考察)	講師
講義	15:00～16:00 (60分)		・gusiness Yatai 版の導入方法	講師
講義	16:00～17:00 (60分)	エンディング	・認定証の授与	講師

3-7 ファシリテータ業務報告書

1.

学校名	神奈川県立有馬高校	生徒数	28名(男子:11名 女子:17名)
学年	2年	授業	総合学習の時間
講師名	岡部 節	アシスタント名	河原 恵子、釜田 美和、橋田 祐造
授業	三日間授業	日程	2005年6月10日、17日、24日

<業務報告>

■概要

- ・平成17年度 起業家教育促進事業 第1校目。
- ・生徒は28名。グループ数は8。総合的な学習の時間を利用しての実施。時間を見ながら適時、講義。
- ・前授業で教室を使用している関係でセッティングにやや遅れがでたり、パソコンの動作不良が発生したりするなどしたが大きな問題にはならず授業実施。

■講師所感

- ・生徒の反応はまずまず。出店では皆興味を持って取り組んでいた。
- ・発表でも傾聴の姿勢を見せるなど、生徒の態度がまじめで、パソコンのトラブルなどもややあったが、問題なく進めることができた。
- ・本事業 平成17年度の第一校目で、授業全体の流れがつかみきれていない部分があったことが、反省であり今後の課題である。

アンケート回収数を表示

2.

学校名	千葉県立千葉商業高校	生徒数	31名(男子:14名 女子:17名)
学年	2年	授業	ベンチャービジネス
講師名	岡部 節	アシスタント名	原口 美紀
授業	二日間授業	日程	2005年7月11日、7月12日

<業務報告>

■概要

- ・起業家教育促進事業の千葉県では第1校目。
- ・生徒は31名。2クラス同時開催。
- ・グループ数は10。総合的な学習の時間を利用。
- ・イントロダクション、エンディングなどの講義を授業途中にはさむかたちで授業進行した。

■講師所感

- ・生徒の反応はまずまず。画面説明は説明が長いので途中で集中力が欠けるもなんと無事に終了。デモ版での出店を2回実施したが、両方とも効果的であった。
- ・生徒が真面目に取り組みの姿勢は素晴らしい。最初から最後まで礼儀正しかった。
- ・計画立案もよくできており、修正計画についても必要性がないチームも多く、出店で想定した売上高を超えるチームも多数あった。

アンケート回収数を表示

3.

学校名	千葉県立千葉商業高校	生徒数	32名(男子:15名 女子:17名)
学年	2年	授業	ベンチャービジネス
講師名	上野 裕司	アシスタント名	河原 恵子
授業	二日間授業	日程	7月11日、12日

■概要

- ・起業家教育促進事業の千葉県では第1校目。
- ・2クラス同時進行
- ・出席者33名。3名～4名出席順で9チームに分けて行う。

■講師所感

- ・今回はなぜかすべてのチームが、「りんご飴屋」を選択していたが計画内容には差があった。グループでの話し合いがあってもアイデアをまとめる点が課題と思われ、アドバイスの工夫の必要性を感じた。
- ・結果報告等の画面は、次に繋げるためにポイントを話す必要性を感じた。
- ・一部よく話す生徒はいたが、比較的しっかりしており、話を長くすると集中力が欠ける部分もあったが、傾聴の姿勢は持っている。自分の夢を持っているものも約半数いたが、社会のしくみを楽しく知ってもらい夢を実現することと見つけることの楽しさを感じてもらえれば良いと思った。生徒は、とても興味深くこのビジネスゲームを感じてもらえたと思う。この授業が彼らの役に立ってもらえることと思う。

アンケート回収数を表示

4.

学校名	千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校	生徒数	14名(男子:8名 女子:6名)
学年	3年	授業	特別授業
講師名	岡部 節	アシスタント名	河原 恵子、釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年7月13日、14日、15日

< 業務報告 >

■概要

- ・千葉県では第2校目。授業は3日間。参加者は希望者。学年はバラバラ。授業は放課後ということもあり、我々には2時間与えられた。
- ・チームメンバーは自由とし、6チームで実施。最初は孤立する女子もいたが、なんとかチームに入ってもらえた。

■講師所感

- ・希望者での実施のため、生徒同士の面識があるチーム、ないチームと様々。そのため、デモ版の部分では中々盛り上がらない。計画立案に入ると、会話を始めるようになり、以後は他の学校と同様の盛り上がりを見せた。
- ・どのチームも優秀であり、立案内容が個性的で非常に面白かった。ただ、残念なことに発表が苦手な生徒が多いらしく、計画立案をより面白くする発表とはなっていなかった。それでも、一生懸命さが伝わる発表であった。
- ・希望者ということもあり、欠席者も色々あったものの、飛び入り参加などのハプニングもあり、関心の高さが伺えた。

アンケート回収数を表示

5.

学校名	神奈川県立横浜立野高校	生徒数	14名(男子:13名 女子:1名)
学年	3年	授業	特別授業
講師名	岡部 節	アシスタント名	原口 美紀
授業	二日間授業	日程	2005年8月1日、2日

< 業務報告 >

■概要

- ・起業家教育促進事業の神奈川県では第2校目。
- ・生徒は14名と小規模。生徒は全て希望者であるため、学年はバラバラ。チーム数は5チームで行った。授業は2日間。当初は1日3時間の時間を確保していただいていたが、生徒の集中力もあるので、50分×3時限の150分で行うこととした。

■講師所感

- ・希望者であるにも関わらず、昨年度体験者が3名もいた事には驚いた。先生に聞いたところ、生徒に同様の内容であるがいかと確認したが、強い希望で参加したいという理由から参加となった。よって12名の設定だったが15名の希望者(1名欠席)ということとなった。
- ・休み時間も席を立たずに計画立案を行う姿に先生も驚いていた様子。出店についても、努力のあとがみられ、どのチームも均衡した結果となっていた。
- ・生徒の反応が一目で判断するのは難しいので不安だったが、休憩時間や終了後に色々と聞かれたことから推察すると、楽しんで授業を受けていたと思われる。

アンケート回収数を表示

6.

学校名	愛媛県立丹原高校	生徒数	20名(男子:10名 女子:10名)
学年	3年	授業	特別授業
講師名	園田 雅江	アシスタント名	釜田 美和
授業	二日間授業	日程	2005年8月3日、4日

< 業務報告 >

■概要

- ・愛媛県西条市で第一校目。男女別のチーム分けて実施。
- ・画面説明などの講義のあとにデモ版で2回出店し、計画立案にはいる。
チーム数が少ないので講義の時間は多くとれた。就職希望者のクラスだったため、エンディングでは「社会」という場所についてやや具体的な話をするなどすると生徒はかなり真剣聞いていた。

■講師所感

- ・おとなし目の素直な生徒といった印象。デモ版のときには女子のチームの盛り上がりには欠け心配したが出店計画が始まるとグループ討議をしながら作り上げていたので安心した。計画は無難なものが多く、やや面白みには欠けるところもあるが、真面目に取り組んでいた。全体的な盛り上がりはおとなしめであったが、それなりに楽しんでいた様子。
- ・最後に、就職希望者のクラスだったので、会社での話に触れたところ、全員の集中力が高まったことに驚いた。具体的な話をしてあげるほど良いと感じたが、本事業の趣旨との関連性が難しいのが残念。

アンケート回収数を表示

7.

学校名	愛知県立愛知商業高校	生徒数	37名(男子:3名 女子:34名)
学年	3年	授業	総合実践
講師名	園田 雅江	アシスタント名	釜田 美和
授業	二日間授業	日程	8月24日、25日

< 業務報告 >

■概要

- ・総合実践の授業で実施。生徒数は37名とやや多め。この学校では新しい教育手法に対して前向きに取り組んでおり、生徒たちの態度も前向きであった。チーム数は10。

■講師所感

- ・挨拶もよくでき、傾聴の姿勢もある生徒たちのため、人数の多さはそれほど気にならなかった。就職を控えている生徒が多く、会社の話に関心は高い。もっと就職についての具体的な話の方が良いかもしれないと感じた。
 - ・生徒のレベルは高く授業はやりやすかったが、ある程度のレベルのある生徒に出店4回(デモ2回+本番2回)は多いと感じた。デモ版は1回でも十分に理解できる能力があると思われる。
- ・台風11号上陸の予想で2日目の授業が成り立たない恐れがあったが、無事二日間を終了することができた。スケジュールの調整が難しいのでやむをえない事情の場合は仕方のない場合があるが、授業を完遂することができないかもしれないという危機感を真に感じた授業であった。

アンケート回収数を表示

8.

学校名	千葉県立銚子商業高校	生徒数	29名(男子:24名 女子:5名)
学年	2年	授業	情報処理
講師名	岡部 節	アシスタント名	河原 恵子
授業	終日授業	日程	2005年8月31日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒は29名。終日プログラムでの実施。グループ数は先生と相談した結果、部活で組んでいる者同士となった。全部で8チーム。
- ・初めに画面説明を行い、続いてデモ版で出店。出店は1回とし、その後、完全版による計画立案を行った。計画時間は50分としたが、途中で10分間の休憩を挟んだ。どのチームも継続し、休み時間をとらなかった。

■講師所感

- ・生徒があまりにも真面目に聞くので、逆に反応が悪いのかと勘違いしたほどだった。そのためか、最初のデモ版での出店ではあまり盛り上がらなかった。一方、計画立案に入ると活気が出てくるなど、計画を休み時間もとらずに続けていた姿勢には先生も驚いていた。出店→結果考察→修正についても、ポイントを理解しており、2回目の出店もまずまずだった。最後、若干時間が足りなかった部分もあったが、終日授業として、集中力が切れないようなタイミングで終わることができた。

アンケート回収数を表示

9.

学校名	千葉県立一宮商業高校	生徒数	31名(男子:9名 女子:21名)
学年	3年	授業	総合実践
講師名	岡部 節	アシスタント名	原口 美紀
授業	二日間授業	日程	2005年9月1日、8日、15日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は39名と多め。2年生のクラス。曜日は異なるが、同じ2年生でもうークラス実施。グループ数は10。チーム分けは先生に一任。 ・初めに画面説明を行おうとしたが、ソフトウェアのインストールがなかなか終わらず、スケジュールを変更して、イントロダクションの講義からスタートとした。15分が経過した時点でやっと画面説明を行える状態になったが、冒頭が少しバタバタしたため、イントロダクションはあまりいい印象ではなかったと思われる。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の打ち合わせとパソコンの環境が異なったためインストールがスムーズに行えず慌てたが、アシスタントが環境整備にまわり、講師のほうは授業に集中できた。学校側のパソコン環境の設定らしく、弊社スタッフでは対処しようがないのが原因であった。その結果、1日目は授業を約5分間延長してしまった。 ・クラス全体は真面目で生徒同士の仲もよく、スムーズ授業ができたことは嬉しかった。2回目の出店で、1回目最下位だったチームが1位になるなどかなり盛り上がった授業であった。このチームの運もあるが、それ以上にやれば出来ると言う精神が皆に伝わったことが嬉しい。 			

アンケート回収数を表示

10.

学校名	千葉県立一宮商業高校	生徒数	26名(男子:8名 女子:18名)
学年	3年	授業	総合実践
講師名	岡部 節	アシスタント名	河原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年9月6日、13日、20日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一宮商業では2クラス目。生徒数は40名と前回とほぼ同じ。2年生のクラス。グループ数は11。チーム分けは先生に一任。(秋から実施する予定のストックリーグのチーム編成のようであった) <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回と同じ教室での実施だったので、インストールなどもスムーズに行えた。同じ学年でも、クラスによって雰囲気若干違う。今後の授業では、雰囲気を考慮しながら、進め方についても多少変更できるよう準備しておくことの必要性を感じた。 ・11チームもあることから、発表では時間を気にしながら行ったつもりではあったが、時間いっぱいとなった。チーム数が多いときには、3日間バージョンは多少厳しいので、初日からタイムマネジメントの重要性を痛感した。クラスとしては非常に盛り上がった。先生も生徒の印象に安心した様子。生徒数が多く、クラスのマネジメントが気になったが、慣れれば問題はないと感じた。生徒のレベルが高かった部分でも助けられた。 			

アンケート回収数を表示

11.

学校名	静岡県立静岡商業高校	生徒数	39名(男子:12名 女子:27名)
学年	1年	授業	簿記
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	二日間授業	日程	2005年9月7日、14日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒は39名とやや多め。生徒は1年生の会計科。チーム数は10。チーム分けについては先生に一任した。

■講師所感

- ・生徒は真面目で非常にやりやすい。途中、校長先生も見に来ていただけるなど学校側の体制は万全。昨年度も実施しており、環境整備などは問題なかったが時間が通常よりも5分少ない45分での実施だったため、トータル15分間は他の学校よりも少なかった。その分、イントロダクションを行えず、また時間もかなりタイトであった。生徒にとっては、多少説明不足の点もあったのかもしれない。今後の反省材料としたい。

アンケート回収数を表示

12.

学校名	多古町立多古中学校	生徒数	34名(男子:16名 女子:18名)
学年	3年	授業	総合的な学習の時間
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年9月27日、10月4日、6日

< 業務報告 >

■概要

- ・本事業初となる中学校での開催。生徒は37名とやや多め。男女比はほぼ同じ。学年は3年。チーム数は9。
- ・初めにデモ版で画面を説明。生徒の雰囲気や操作については問題ない様子。

■講師所感

- ・中学生と言うこともあり、財務的な用語については解説も含めて気を使った。生徒も緊張しているためか、少し大人しいのが気にかかるが、出店の反応などをみるとそれも問題ないと思われる。後半の授業で2年生が「授業取材」という形で30人前後入ってきたこともあり、一時60人ぐらいが教室に入っている状態であったが、3年生の生徒は気にせず計画立案を続けてくれた集中力はすばらしかった。計画を見ていくと、高校生と中学生の違いとしては販売価格と販促で見受けられた。価格については中学生価格というのか、高校生と比較して全体的に低価格志向。また、販促と言う概念が苦手なのか、サンプルデータと酷似しているのがほとんどであった。一方、商品企画についてはあまり差がなかった。3日目の授業でも多くの参観者が教室内にあり、さすがに生徒たちも当惑した様子で、出店も今一步の盛り上がりであったことが残念だが、中学生への初実施としてはよい授業内容であったと思われる。

アンケート回収数を表示

13.

学校名	千葉県立成田西陵高校	生徒数	24名(男子:20名 女子:4名)
学年	3年	授業	課題研究
講師名	岡部 節	アシスタント名	原口 美紀
授業	二日間授業	日程	2005年9月28日、10月10日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は26名とやや少なめ。農業系の学校ということから、男子生徒が多い。チーム分けは先生に一任。チーム数は8となった。先生の熱心な指導もあり、生徒の取り組みもまじめ。パソコン操作についても問題なくスムーズに予定通り授業を進行した。 ・計画立案では休み時間も席を立たずに取り組む姿勢が見受けられた。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常にやりやすい生徒で安心した。授業態度もよく、なによりも活気がある。途中から、先生も参加して真剣に計画立案していた。 ・発表が苦手な生徒だと聞いていたが、レベルの高い発表であった。非常に面白く、内容も充実したことから、時間が延長してしまった。出店も真剣に取り組むなど、担当教諭の指導と協力のおかげと思われる。 			

アンケート回収数を表示

14.

学校名	千葉県立成田西陵高校	生徒数	21名(男子:20名 女子:1名)
学年	3年	授業	課題研究
講師名	園田 雅江	アシスタント名	河原 恵子
授業	二日間授業	日程	2005年9月28日、10月5日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間授業の初日。生徒数は21名とやや少なめ。農業系の学校ということから、男子生徒が多い。チーム分けは予め先生に依頼。チーム数は9となった。学年は3年。 ・チーム分けにやや問題があり、一人チームや二人組といったチームがあったが、先生の参加などで無難にこなすことができた。 ・チーム数がやや多かったため、発表で時間を多くさき、講義の時間がやや少なめになったが、随時、講義時間を確保した。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は挨拶もよくでき態度がよい。前回欠席で、発表のときから出席する生徒が何人かいたがこういった生徒がいるときの授業の進め方に工夫がいたと感じた。一部関心が薄い生徒や体調の芳しくない生徒がいたことと、私語が多くなりがちで注目させるのに少し苦労した点はあったが、全体的には前向きで熱心な取り組みだった。ソフトウェアが欲しいという要望があったので、講師養成講座について説明をしたところ、生徒が先生に受講をお願いする一面も見受けられた(先生はその後、受講し認定講師となっていた)。 			

アンケート回収数を表示

15.

学校名	神奈川県立麻生総合高校	生徒数	7名(男子:5名 女子:2名)
学年	2~3年	授業	政治・経済
講師名	上野 裕司	アシスタント名	釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年10月17日、24日、31日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は11名で単位制の高校であり、対象者が「政治経済」の授業選択者。チーム数は先生にお任せして5チーム。
- ・生徒の授業への参加意欲がやや低く、途中退室、遅刻なども他校に比べると目立ったため、授業全体のとりまとめが難しかった。

■講師所感

- ・各回、開始時間が約10分程度遅れたことでの時間損失が残念であった。今回は、イントロダクションの講義から入ったが、これで生徒の取り組みがよく見える。しかし、少し話が長すぎ、スローペースだった。計画立案が心配であったが最後には、それなりに完成した。ただ、出店では、チームの計画立案力に差が出るよう気を使い、適当にやっても「結果でよし」とならないよう配慮した。出店中は、チームで話しあって決めていた様子もある。前向きに取り組む生徒たちの姿勢が真面目だったので、うまく協働しあえた点もあった。生徒たちの参加意欲を引き出すことに苦労をしたが、先生と生徒のコミュニケーションなども、授業運営に大きな影響があることも感じた。

アンケート回収数を表示

16.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	18名(男子:7名 女子:11名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	園田 雅江	アシスタント名	河原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年10月17日、24日、31日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は20名とやや少なめ。現代社会の授業であり、生徒は選択によって授業の曜日が異なる。チーム数は8チームでチーム分けは出席番号順。8チーム目は男子生徒1名だったので先生が参加した。
- ・3回授業を通して、欠席者もやや目立ったが、チームあたりの人数が少ないので、グループディスカッションがうまくでき、全体的に大きな支障はなかった。

■講師所感

- ・教室スタイルで行う授業のため、最初バタバタしたが、アシスタントが環境整備を行ったことから授業進行については問題なかった。しかし生徒のパソコンスキルがやや低かったため、フォローをしっかりと入れながらの進行であった。全体的に計画が書けていない部分があったが、発表では無事に終了した。時間配分などに少々の問題があったが、生徒は楽しんでいた様子。

アンケート回収数を表示

17.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	22名(男子:13名 女子:9名)
講師名	岡部 節	アシスタント名	原口 美紀
学年	1~3年	授業	現代社会
授業	三日間授業	日程	2005年10月17日、24日、31日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は23名とやや少なめ。現代社会の授業であり、選択によって授業の曜日が異なる。チーム数は6と少なめ。4人チームがほとんど。チーム分けは先生に任せた。 ・通常はデモ版での出店を2回行うが、今回は授業時間が短いので出店は1回でとどめた。 ・計画立案がなかなか進まなかったり、パソコン環境に不備があったりと、全体的にやや進行状況が遅くなる傾向があったので駆け足で授業を進めた。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画立案の段階では進行状況が遅めだったのでどうなるか不安だったが、最後にきちんとまとめてくるチームが多かった。発表内容は非常に良く、また、どの生徒も傾聴のスタイルが取れていたことには感心した。時間が短く、十分な説明が出来ないまま進んでいったことやプロジェクターなどの環境があまりよくなかったため、発表の考察などを実施する時間が十分に取れなかったことが反省点である。 			

アンケート回収数を表示

18.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	34名(男子:15名 女子:19名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	園田 雅江	アシスタント名	原口 美紀
授業	三日間授業	日程	2005年10月17日、24日、31日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は40名と多い。チーム数は8。5人1チームのため、ちょっと窮屈な感じがした。 ・説明をかなり省略してデモ版で出店。出店後の解説をしながら説明を行った。 ・グループディスカッションができており、コミュニケーションはうまくはかれていた。講師の話もよく聴く姿勢があったが、全体を静かに注目させてまとめることがやや難しいクラスであった。 <p>講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのスキルについて問題もあったが、なにより生徒数が多いため、講師の目が行き届かない部分があった。とくに問題があると思われるチーム(パソコンスキルや、参加しない生徒がいるなど)は事前にベンチマークしておいて重点的にフォローを心がけて運営をしないと難しい。ただ、予想以上に全員意欲的に授業に参加し熱心に講義を聴いていたので担当先生も喜んでおられた。 			

アンケート回収数を表示

19.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	36名(男子:22名 女子:14名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	河原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年10月17日、24日、31日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は40名と多め。予め先生にチーム分けを依頼。チーム数は9。男女混合のチームがほとんどであった。
- ・チーム数が多いため、全体的に説明部分を少し削りながら授業進行。講義は、シミュレーションの間にはさんでいくかたちで進行。発表時間なども短縮しながら前倒しで授業を進める。生徒たちもよくついてきており、計画内容も面白いもののできあがっていた。出店も盛り上がりを見せ、スピードの速い授業進行も問題なかった。

■講師所感

- ・普通教室で40名近い生徒での実施は環境的に厳しい。空間的に狭く、圧迫感がかなりあった。しかし、その一方で生徒同士の関係は密接になることから、討議が活発化するという利点も感じられた。
- ・1チーム1分間の発表としても、質疑応答などを含めるとトータルで45分間かかることから、授業自体を前倒しで進め時間内に終了した。授業時間と生徒数は各学校によって違うので、状況にあわせた時間配分と授業進行を慎重に行う必要性をあらためて感じた。

アンケート回収数を表示

20.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	32名(男子:14名 女子:18名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年10月18、25日、11月1日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は34名とやや多め。チーム数は9。チーム分けは先生に一任。
- ・朝一の授業で、説明部分などで集中力を欠いてしまう生徒がいたが、テンポをあげてフォローしていくことで進捗を統一。
- ・シミュレーション途中にイントロダクションなどの講義をはさみながら授業進行。

■講師所感

- ・人数も多く、生徒すべてに目がいかないため、画面説明などで寝てしまう生徒が出てしまう。出店以降は問題なく進められるが、説明を聞いていないためか、何をしたらいいのか分からない生徒もいたことが問題であった。
- ・チーム数が多いため、発表に要する時間が長い。それでも生徒達は最後までしっかり聞いていた。発表などに慣れているためか計画内容をしっかりと話すことができていた。チームメンバーの結束力があるので出店も力が入っていた様子。生徒は真面目で、修正についても講師の説明に沿って修正する姿が見受けられ素直な生徒たちだった。

アンケート回収数を表示

21.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	7名(男子:6名 女子:1名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年10月18、25日、11月1日
<p><業務報告></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は7名と非常に少ない。チーム数は3。チーム分けは先生に一任した。2年生と3年生の混合のクラス。 ・生徒数が少ないで、デモ版の出店を2回行い、発表、講義の時間を多めにとった。 ・参加意欲も高い生徒なので個別に色々話しをしながら進めることができ少人数クラスの利点が活かせる授業内容となった。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表では人数が少ないため緊張感が漂う雰囲気とはならなかった。だがそのおかげか生徒も持ち前の力を発揮できた様子。 ・チーム数が少ないので出店後の結果考察が心配されたが他のクラスのチームとの比較などもしながら結果考察をおこなった。 ・生徒はみんな真面目に授業に取り組んでいた。 			

アンケート回収数を表示

22.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	12名(男子:7名 女子:5名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	新井 安代
授業	三日間授業	日程	2005年10月19、26日、11月2日
<p><業務報告></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は13名と少なめ。チーム数は4。チーム分けは先生に一任。 ・全体的にデモ版の出店では、どのチームもなかなかの好成績であり、内容もよく理解できた上で次のステップへと進むことができた。 ・発表も各チームしっかりと思い入れを持って話すことができ、出店に対する取り組みも真面目で、各チームの結果は僅差であった。 ・イントロダクションなどの講義はシミュレーションの間に挟みながら進めた。 <p>講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝一の授業であったが説明なども、生徒は真剣に聞く姿勢ができています。 ・計画立案も、すぐに書き出して1日目で完成度の高いものを仕上げるができる力があり、その後の授業進行も心配することなく進めることができた。 ・修正計画立案の時点で、講師のポイントをしっかりとふまえて改善する努力をしているのがよくわかり、感心した。 			

アンケート回収数を表示

23.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	28名(男子:14名 女子:14名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	新井 安代
授業	三日間授業	日程	2005年10月19、26日、11月2日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は24名と普通。チーム数は9。チーム分けは先生に一任した。学年混合。
- ・当初予定していた普通教室から生物教室へと移動し、環境は良かったが、初日は教室移動を知らされていなかった生徒もいたため、開始が5分遅れる。
- ・生徒の取り組みは真面目で協力的であり授業進行はスムーズであった。
- ・教室移動、環境設定なども含めて、時間が足りなくなり全体的にかなり駆け足で進めたため、講義時間は短くなった。

■講師所感

- ・やる気のある生徒が数名いたことから、非常に盛り上がった授業となった。どのチームも1位になることに必死であり、初めの結果考察の解説をよく聞いていた。

アンケート回収数を表示

24.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	15名(男子:8名 女子:7名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	新井 安代
授業	三日間授業	日程	2005年10月21、28日、11月4日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は15名とやや少なめ。チーム数は6。チーム分けは先生に一任した。
- ・全体的に計画立案も発表のスムーズに進む。内容も充実しており、生徒の理解度も高い授業だった。

■講師所感

- ・少人数クラスだと出店や結果考察での盛り上がりには欠けるなどの短所もあるが、しっかり目が行き届く分、生徒が何をしているのか把握しやすい。
- ・計画立案では自分達の計画を真剣に考える姿勢が見られた。
- ・発表では、生徒数がやや少なめなので、和やかな雰囲気の中で実施できた。また、発表も結構色々なパターンがあって面白かった。

アンケート回収数を表示

25.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	23名(男子:12名 女子:11名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	新井 安代
授業	三日間授業	日程	2005年10月21、28日、11月4日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は26名と普通。チーム数は8。3~4名のチーム編成。チーム分けは先生に一任した。 ・初日の冒頭でチーム分けをするという状況になり、最初から授業時間が短くなったため講義部分が短くなった。 ・授業全体としては、生徒の前向きな姿勢によりとても盛り上がりのある授業となった。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室がやや狭かったが、生徒間の距離が近くなったことが逆に臨場感を生み、授業全体の盛り上がりにつながったと思われる。 ・出店後の結果考察では、各指標により順位が変わるということが顕著にあらわれ、生徒たちの関心を引き出す結果となった。 			

アンケート回収数を表示

26.

学校名	神奈川県立相模原総合高校	生徒数	7名(男子:3名 女子:4名)
学年	1~3年	授業	現代社会
講師名	岡部 節	アシスタント名	新井 安代
授業	三日間授業	日程	2005年10月20、27日、11月10日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は7名とかなり少なめ。チーム数は3。チーム分けは先生に一任。学年混合。(一昨年、弊社の授業を受けた生徒が2名いた。) ・チーム数が少ないので、デモ版でも2回の出店を行う。 ・本番の出店では、各チームとも特徴的な販売手法をとっていたので、考察の際のよい事例になった。 ・本来は3週連続授業だが、祝日ははさんだため、2回目と3回目の授業の間に1週間、時間があいた。そのため、最終日にはほとんどの生徒が前回までの内容を忘れていたため振り返りから始めた。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年前に教えた生徒の会うことは本当に驚いた。当時1年生だった生徒も3年生になっていて、レベルが上がっていると感じた。 ・他の少人数クラスと同様、発表などに費やす時間が少ないため、講義の時間が十分とれることが利点であるが、逆に、発表や結果では盛り上がり欠ける部分もある。ただ、このクラスでは計画内容も発表内容もユニークで面白みがあったので、他の生徒も興味深く聴いていた。 			

アンケート回収数を表示

27.

学校名	愛媛県立東予高校	生徒数	11名(男子:6名 女子:5名)
学年	3年	授業	総合的な学習の時間
講師名	園田 雅江	アシスタント名	栗原 恵子、釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年11月1日、8日、15日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム数は4。3人×4チーム。出席番号順のチーム分け。 ・午後一番の授業なので、集中力はそんなに高くないと考え、冒頭の説明は短めに終わらせて、デモ版で出店からスタートした。 ・ゲームの内容もよく理解しており、計画もたくさん書いているが発表については苦手な様子。パソコン環境があまりよくなく、FDが破損したり、フリーズしたりというトラブルが続出したが、生徒数が少ないこともあり、講義で時間を調整し、授業全体に大きな支障をきたすことなく終了できた。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女の仲がよく、まとまりのあるクラスで、学校の雰囲気自体がとても良い環境だった。パソコンのトラブルなどが発生しても、授業崩壊することなく、しっかりと授業を進めることができた。 ・1名、体の不自由な生徒がおり、最初は心配したがその子を皆でフォローしながら進めていることには感心した。グループディスカッションも問題はなかった。 ・休憩時間に、他のクラスの生徒が見に来ていた。皆内容を知っており、クラスで話題にしているようで、先生からも他のクラスの生徒もやってみたいという要望があがっていた様子。 			

アンケート回収数を表示

28.

学校名	千葉県立多古高校	生徒数	38名(男子:28名 女子:10名)
学年	3年	授業	総合的な学習の時間
講師名	上野 裕司	アシスタント名	河原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年11月1日、10日、17日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は40名、2クラス合同・チーム編成は、出席順で4人10チーム ・授業全体の進行は講義を間に入れながらシミュレーションを行う方法を使った。 ・チーム数が10チームと多く、発表、講評に時間を多くとられたことで、最後の出店の辺でかなり時間が短い状況となってしまった。 <p>講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても取り組みが真剣で、前向きの生徒である。町自体の祭りごとが盛んで、日頃からみんな参加していることの影響なのか、コミュニケーションもよく図れている。個人としても、グループとしても意識が高い学校と感じられた。発表では、これから人前で話す機会を多く経験することで、本人達の成長もあると感じた。 			

アンケート回収数を表示

29.

学校名	愛知県立古知野高校	生徒数	33名(男子:9名 女子:24名)
学年	3年	学校	課題研究
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2005年11月7日、14日、21日

< 業務報告 >

■概要

- ・生徒数は34名と多め。チーム数は11。課題研究という授業での展開のため、同じクラスの生徒ではない。
- ・授業開始からしばらくは、午後一番の授業で集中力がやや欠けている生徒がいたり、出店にとまどう姿も見受けられたが、慣れてくるにつれて、周りの状況などを気にする姿勢もでてきた。
- ・講義を間に挟みながら授業を進行したが、チーム数が多いため時間が厳しい状況での進行となった。

■講師所感

- ・チーム数が多いクラスについては、1回目の授業から時間調整をいれるようにしているが、発表の質疑応答などで時間がとられることも多く、今後の課題である。
- ・計画立案では、宿題にしていたわけではないのに、事前に考え、手書きの用紙を持参する生徒が複数いるなど、授業に対して前向きな姿勢だったのは嬉しかった。

アンケート回収数を表示

30.

学校名	神奈川県立商工高校	生徒数	10名(男子:5名 女子:5名)
学年	3年	授業	総合的な学習の時間
講師名	上野 裕司	アシスタント名	河原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年11月7日、14日、21日

< 業務報告 >

■概要

- ・商業科、情報処理科、国際経済科の3クラス合同授業。
- ・チーム編成は、クラス別で4チーム。
- ・3週とも、遅刻者があり約10分遅れでの開始であったが時間的な余裕があったので細かい説明も含みながら授業を進行。

講師所感

- ・授業態度としては、私語が多少あるなど完璧とは言えないが、傾聴し、理解する力は高い。計画立案ではアイデアに富み、出店の際も真剣に考えて答えを出そうとしていた。
- ・授業内容が、「販売技術」ということでもあり、また、商業科だけでなく、各クラスとも簿記等をやっているとのことで、デモ出店の際は、仕入や売上、利益の数字に関して取り組みが積極的で、各グループともチームディスカッションが活発であった。

アンケート回収数を表示

31.

学校名	神奈川県立光陵高校	生徒数	33名(男子:18名 女子:15名)
学年	3年	授業	特別授業
講師名	岡部 節	アシスタント名	栗原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年11月11、25日、12月9日
<p><業務報告></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は37名と多め。チーム分けは事前に先生に依頼。チーム数は8。 ・授業時間が通常より少ない時間配分であった。 ・計画立案も40分で完成させるなど、時間的に厳しい状況での進行となったが、生徒は授業についてきていた。 ・完全版での出店は、本来、出店 修正計画立案 再出店としているが、最終日は授業時間が70分ほどしか確保されていなかったため、1度の出店で授業を終了し、修正計画はしなかった。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度授業を受けている生徒がいるチームはさすが。計画立案もポイントを押さえ、何も問題はない。一方、討議は充実しているが結論に達しないチームあるなど様々。 ・生徒の反応は、時間がタイトな分、盛り上がりには欠けた。通常の本プログラムの2/3程度では難しいという結論が感じられた授業であった。 			

アンケート回収数を表示

32.

学校名	静岡県立島田商業高校	生徒数	28名(男子:9名 女子:19名)
学年	3年	授業	課題研究
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和、栗原 恵子
授業	三日間授業	日程	2005年11月17、24日、12月1日
<p><業務報告></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数は31名とやや多め。チーム数は8。パソコンは持ち込みで行った。 ・初めに画面説明を行った。プロジェクターやセンターモニターがないため、講師から全く画面が見えずの説明であった、問題はなかった。 ・講義ではプレゼンテーションの重要性などを中心に解説した。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモ版での出店では、全体的にあまり業績が芳しくなかった。計画立案を開始したが、アイデアをビジネスにする力が多少不足しているのか、討議途中で手が止まってしまうチームも。 ・発表も、途中で黙ってしまうチームもあったが、質疑応答を繰り返すことで生徒の考えのプロセスを引き出すことができたことが、後の出店では効果があった。その結果、充実した授業内容であった。 			

アンケート回収数を表示

33.

学校名	神奈川県立霧が丘高校	生徒数	20名(男子:15名 女子:5名)
学年	2年	授業	総合的な学習の時間
講師名	園田 雅江	アシスタント名	栗原 恵子
授業	終日授業	日程	2005年12月15日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終日プログラムで実施。チーム数は7(先生2名で1チーム作ったので、実質は8)。 ・午前中にデモ版を使って操作説明と出店体験、その後、計画立案と発表を行った。 ・お昼休みを挟み、完全版での出店(2回)とイントロダクション、エンディングの講義、最後に結果を解説して終了した。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は素直に講師の話を聞く姿勢はあるが集中力が多少弱い。さらに終日のプログラムなので最後は力尽きている生徒もいた。 ・先生2名は、最初から最後まで参加者として真剣に取り組んでいた。 ・終日プログラムは、長時間に及ぶのでリズム感よく進めないと集中力が欠ける生徒がいることなど、今後の課題となった。 			

アンケート回収数を表示

34.

学校名	静岡県立沼津商業高校	生徒数	36名(男子:10名 女子:26名)
学年	3年	授業	特別授業
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	二日間授業	日程	2005年12月15日、16日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2日間授業の初日。生徒数は36名と多め。チーム数は10。 ・パソコンは最新なので問題なし。初めに画面説明を行った。プロジェクターがないためセンターモニターで解説。生徒はみな真剣に操作していた。 ・次にデモ版で出店を体験。初めはどんな内容なのか分からずに操作していたが慣れてくると、授業に対する真剣度もましてきた。 ・イントロダクションなどの講義は、間に挟みながら解説した。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常に真面目な生徒が多く、授業はスムーズに行えた。話を聞く姿勢もあり、進行に問題はなかった。 ・計画立案でも最初の時間で書き進めるチームが多く、内容的にボリュームがありいい計画内容であった。 ・発表は、予想以上の出来に驚いた。 			

アンケート回収数を表示

35.

学校名	愛知県立鶴城丘高校	生徒数	38名(男子:7名 女子:31名)
学年	2年	授業	商品と流通
講師名	岡部 節	アシスタント名	釜田 美和
授業	二日間授業	日程	2006年2月8日、10日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2日間授業。生徒数は39名と多め。女子が9割。チーム分けは先生に一任。 ・ 学校内のインキュベーションセンターと呼ばれる施設内にあるPCルームで開催。設備がよく整っており、学校の先生方の協力体制も万全であったため、授業進行もスムーズであった。発表の時には別の授業担当の先生だけでなく新聞社や、県議員の方までが参観にこられ授業の間にスピーチがはいるなど、やや特殊なムードとなったが生徒たちは集中力を切らさずに授業に取り組んでいた。 ・ イレギュラーなことがいくつかあり、やや授業時間も延長してしまったが、内容的に充実したものとなった。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3コマなので、講師側としてもやりやすい時間配分となった。生徒は真面目で明るい。 ・ 途中、校長先生が授業を参観にこられて生徒の反応を見られていた。 ・ 先生と生徒のコミュニケーションがとても円滑で、イレギュラーがあっても真面目に授業には取り組んでいた。 			

アンケート回収数を表示

36.

学校名	神奈川県立大師高校	生徒数	11名(男子:5名 女子:6名)
学年	2年	授業	ビジネス基礎
講師名	園田 雅江	アシスタント名	栗原 恵子、釜田 美和
授業	三日間授業	日程	2006年2月8日、15日、3月15日
<p>< 業務報告 ></p> <p>■概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3日間授業。生徒は11名と少なめ。チーム数は4。 ・ 学校行事の都合により、2回目と3回目の授業の間が一ヶ月あくスケジュールとなりイントロダクションの講義時間を分散させながら内容を思い出す時間をとるなどして、授業全体構成を整えた。 <p>■講師所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画立案では議論も出来ており順調だが、チームの人数が2名~4名、女子のみ、男子のみ、混成(男1 女3)などチームによる温度差が大きい。説明後、計画立案に入るが、議論も出来ており順調。チームの人数が2名~4名、女子だけ、男子だけ、混成(男1 女3)でチームによる温度差が大きい。欠席者がでると1人になってしまうチームもあり、少々苦戦している様子もうかがえた。 ・ 3回の授業は、やはり3週連続が望ましい。1カ月のブランクは、生徒の集中力を維持するという意味でも困難であったと思われる。 			

アンケート回収数を表示

4. 考察

4-1 平成 16 年度との相違点

昨年度とのもっとも大きな相違点は、弊社から講師を二名派遣し、授業を実施するモデル授業に加えて、講師養成講座を開催し、先生方に認定講師となっただけで事例を創出したことです。本年度当初からの目標であった普及・定着プランの第一歩を踏み出すことができた実感しております。

講師養成講座は、本年度に三回実施し、東京で二回、愛媛県で一回実施しました。東京開催は、二回とも経済産業省の会議室での開催となり、神奈川県、千葉県、愛知県などの先生方が参加されました。また愛媛県では西条市の近隣市町村からも先生が集まり、なかでも愛媛県立大洲高校では、講師養成講座の二週間後に先生が授業に挑戦するなど、実践的な部分に本事業が至ったと感じております。普及・定着プランとしての位置づけに加え、弊社にとっても先生からのフィードバックを受けながら、本プログラムの改善を行うことができるなど、相乗効果が大きかったと考えます。

新たな試みとしては、本年度は中学校でもモデル授業を実施しました。千葉県の多古中学校での試験的な実施ではありましたが、本プログラムが高校生だけではなく、中学生にも受け入れられると思われました。しかしながら、現状のテキストでは、中学 1、2 年生では多少ハードルが高いという意見も出ており、今後の課題を残しております。しかしながら、多古中学校からは、講師養成講座にも先生が参加していただき、認定講師として輩出しておりますので、今後の展開が楽しみです。

4-2 講師養成講座について

講師養成講座では、弊社のプログラムの特性であるパソコンを使ったシミュレーションについての技術的な点を習得することに加え、講師が授業で使用する「ファシリテーション」という手法についても解説しております。

学校の授業では、とかく解答を教師側が伝えがちですが、本プログラムでは、生徒の自由な発想を計画として落とし込む力を養うことを目的としているため、初めから解答を述べてしまうと、生徒はそれに影響され、自身で考えることを止めてしまう傾向にあります。また、生徒の自主性に任せてしまうと、計画立案を途中で放棄してしまう危険性もあります。ファシリテーションは、生徒の能力を引き出すためにヒントを述べながら、グループ討議の活性化を図り、時間内に完成に至るよう促すことが可能です。教えるプロである先生方は、どちらかという教えなくてヒントを出すことがあまり得意でない方もいると思われるので、ファシリテーションを技術として体得していただき、授業の手法として応用していただくことが重要と考えます。

講師養成講座の二日目の質疑応答において、先生方から一番多かった質問は、本委託事業がいつまで継続するのかという点でした。弊社側では明確な回答ができない旨を伝え、来年度実施する場合の手順（モデル自治体など）を解説しましたが、回答が明確でないことから、どこまで理解されたかは疑問視されるところです。その他は、費用面について質問がありました。本講座を受講した先生方にはソフトウェアを進呈する旨を伝え、テキストについては一部 1,000 円で購入していただいていることを説明しました。また、ソフトウェアのバージョンアップについてですが、バージョンアップについては現在のところ考えてはおりませんが、もしそのような場合は弊社のホームページなどでお知らせする予定であることを伝えました。

5. 今後の課題

繰り返し述べてきましたが、やはり最大の課題は、授業時間の確保であると考えます。プログラムについての理解や評価があったとしても、授業時間が確保できなければ実施とならず、結果的に多くの生徒に体験の場を提供することができません。授業時間の確保については、弊社はもちろんのこと自治体でも調整は困難であり、学校現場の事情によるものが多いと推察致します。よって、学校現場の事情を鑑みて、情報交換を密度高く行いながら、前向きに取り組んでいただくように働きかけていくことが最善と考えます。

さらに、普及・定着のキーポイントは、やはり学校教員による通常授業内での実施であります。しかしながら、通常の授業と異質なプログラムの導入に際しては、先生方の信頼と賛同を得たうえで、プログラム運営に必要な技術を習得していただくことが肝要です。そのためには、本年度実施したような講師養成講座を多く実施することと、参加いただく先生方を一人でも多く集めることが必要です。先生の参加については、教育委員会などの自治体の協力が欠かせない要素となってきますので、今後ともますますの理解と賛同を得るよう、弊社においても啓蒙活動を続けていきたいと思っております。

6. 独自アンケート調査結果（先生）

6-1 平成17年度 起業家教育促進事業「ビジネス体験プログラム」実施について

1. 「ビジネス体験プログラム」を受け入れてみようと思われた理由

資料を拝見させていただく中で、プログラムが体系的に整備されており、日程的な面、施設環境面でも合致し導入しやすいと判断しました。最大の理由はもちろん“体験学習”による学習効果が期待できると思ったことです。

千葉県立一宮商業高校 西川 徳郎 先生
何日かに分けて実施できることと、パソコンを利用した内容であること簿記会計分野の内容も含まれていることなどです。

愛知県立愛知商業高校 佐藤 高弘 先生
本校で進める起業家教育の一環として検討した。本校では2年時より、コース制を取り、流通ビジネスコースに学校設定科目「ベンチャービジネス」を設置し、起業家育成教育に取り組んでいる。

千葉県立千葉商業高校 山崎 衡 先生
学校を取り巻く地域の特性として、起業家精神を育成することが必要である。
商業の教育の中に、これから起業家育成が大きな課題となる

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 斉藤 孝 教頭先生

以前から出張や講習会等に参加したときに起業家についての話が出ており、本校の生徒にも体験させたいと思いました。

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 押本 欣彦 先生
様々な角度から学校で取り組んでいるキャリア教育指定研修充実のための授業実践を考えたときに、コンピュータを使つての起業家教育授業が有効であると思えたので、このプログラムを受け入れた。

千葉県多古町立多古中学校 今井 康雄 先生
生徒が主体的に取り組み、楽しく授業時間を過ごすことのできるプログラムに取り組みたいと考えていたところに、高校教育課を通じ、参加の募集があったから。

神奈川県立相模原総合高校 菅野 勇之 先生
普段の学校生活では体験勉強できない事柄を体験させることにより生徒の別の面を引き出せたらという考えで受け入れました。
キャリア教育の研究指定校となる前から、多様な進路指導や「総合的な学習の時間」を考えていた中でこのプログラムは意義あるものと考えたから。

神奈川県立光陵高校 川邊 篤先生、大濱 信宏 先生
県教委から紹介され、VTR を拝見して登場する生徒の表情がよく、新しい指導方法として興味が持てたことと、担当している課題研究（職場体験学習）の生徒に就労体験以後、意識のレベルアップをするために何かとりいれたいと考えていたことが時期的にも一致したため。

静岡県立島田商業高校 立石 和宏 先生
2年生総合的な学習の時間で分野別の体験授業を企画し、その一つとして導入。

神奈川県立霧が丘高校 宮原 章祥 先生

昨年度、中部経済産業局の起業家教育促進事業に参加した関係から、今年度も愛知県商業教育振興会より依頼を受け、採択プログラムの中から最も本校の生徒の実態に合ったプログラム内容であったため。

愛知県立鶴城丘高校 鶴田 毅 先生、山崎 由紀子先生
座学だけでは理解しづらいビジネスの感覚を「ビジネス体験プログラム」で自ら考え、行動していく授業をやってみたかった。

神奈川県立大師高校 山本 亨先生

2. 「ビジネス体験プログラム」全体を通しての感想

予期していた以上に生徒の反応が肯定的でした。ゲーム感覚で取り組むことができるので、生徒たちもアグレッシブに授業に参加をしていました。導入して良かったと思っています。

千葉県立一宮商業高校 西川 徳郎 先生
全体を通しては特に問題はなく、良かったと思います。

愛知県立愛知商業高校 佐藤 高弘 先生
パソコンを使い簡単に取り入れられるプログラムであり、実際に体験させるプログラムとセットになると良いと考える。

千葉県立千葉商業高校 山崎 衡 先生
生徒達は、最初とまどいがあったが終了後は、各チームとも満足していた様子である。事前、事後の授業でのサポートが必要である。

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 斉藤 孝 教頭先生
プランだけで終わるのではなく、ソフトによって結果がわかり、また生徒も楽しみながら体験していました。充実した三日間でした。ありがとうございます。

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 押本 欣彦 先生
「会社」の基礎が理解できた。また、4人～5人の班で行ったため、班員で協力し話し合いながら学習を進めることができ、キャリア能力の育成に大きな効果があった。

千葉県立多古町立多古中学校 今井 康雄 先生
思っていた以上に、細部にわたってプログラムが考えられており、生徒たちも、考え、話し合い、企画し、結果に一喜一憂し、プレゼンテーションもありで、実に楽しそうでした。

神奈川県立相模原総合高校 菅野 勇之 先生
生徒にとってゲーム感覚であり深刻にならず、又、ただのお遊びにもならずすぐに馴染めて、好評であった。また、グループ毎の競争心も出てきて、生徒のいままで見せたことのない一面も見ることができ、大変有意義であった。

生徒にとってビジネスの模擬演習となり有意義な学習であったと思う。これが50分単位で5～6回のプログラムになるとさらに多くの生徒を対象に実施できると思った。

神奈川県立光陵高校 川邊 篤先生、大濱 信宏 先生

3年生に導入したが、過去2年半の商業科目の学習の復習、実践的活用になると思われた。様々な角度から考察する、つながりのある思考、論理、グループの協調のはかりかた、プレゼンテーション、他グループとの競争意識、アイデアの創造など（期待以上に）盛り込まれており、生徒の反応とともに楽しく見られたと思う。

静岡県立島田商業高校 立石 和宏 先生

一緒に体験させていただき興味をもって取り組むことができた。生徒の反応もよかった。ただ1日の体験だったので少し長かった。

神奈川県立霧が丘高校 宮原 章祥 先生
普通の授業では体験できない内容で、生徒たちは実に生き生きと学習することができました。プレゼンの方法や店舗経営、最新の経済事情等をご教示賜り、誠にありがとうございました。

愛知県立鶴城丘高校 鶴田 毅先生、山崎 由紀子 先生

生徒が受け入れやすい内容でしたので良かったと思います。

神奈川県立大師高校 山本 亨先生

3. 講師、アシスタントに対してのご意見・ご感想

ミーティング・準備の段階から大変な御尽力をいただきました。感謝の一言です。ありがとうございました。

千葉県立一宮商業高校 西川 徳郎
生徒が途中で集中力に欠ける場面があるのですが、それに対する対応をもう少し工夫していただけると良いがその他はありません。

愛知県立愛知商業高校 佐藤 高弘先生
とてもよく指導して頂きました。ありがとうございました。

千葉県立千葉商業高校 山崎 衡
大きな声とわかり易い説明であったと思います。

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 斉藤 孝教頭先生
体験したことを、今後の進路指導・生徒指導に役立てたいと思います。貴重な体験ありがとうございました。

千葉県立鶴舞桜ヶ丘高校 押本 欣彦先生
講義、説明、指示が明確でわかりやすかった。

千葉県多古町立多古中学校 今井 康雄先生
3週にわたって大変よくご指導いただきました。こちらは環境を整えればよしだけでなく、生徒達へのアプローチの仕方やきめ細かい準備等、大変勉強になりました。本当にお世話になり有り難うございました。

神奈川県立相模原総合高校 菅野 勇之 先生
丁寧に説明されて、わかりやすかつプレゼンの質問も急所をつく内容でそれに対する生徒の反応も素晴らしく、面白く観察することができました。ありがとうございます。説明等わかりやすく、生徒から好評であった。

神奈川県立光陵高校 川邊 篤先生、大濱 信宏 先生
引き込まれるような講師の話術や時間の上手な使い方にも教員としても習うべきことが数多くありました。アシスタントの方にはパソコンのセットアップを限られた時間の中でてきぱきとこなしているのを見て大変感心させられました。

愛知県立鶴城丘高校 鶴田 毅先生、山崎 由紀子 先生

説明の仕方や、進行の仕方が上手く、満足のいく内容だった。

神奈川県立大師高校 山本 亨先生

6-2 第一回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について [開催日程 8月11日、12日]

1. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」を受けてみようと思われた理由 (重複)

起業家教育に興味がある	7人
授業に使いたい	7人
自治体の要請	1人
その他	1人(教育委員会より研修の案内があったため)

2. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」全体を通しての感想

期待以上に内容の濃い大変充実した講座であり、遠路より参加したかいがあった。

宮城県伊具高校 三浦 浩 先生

より多くの方が受講しやすいように1回の受講でできるようにしてはどうか。

千葉県教育庁指導課 岡本 次夫 指導主事

非常にわかりやすい、丁寧な説明でした。ファシリテータの役割、評価分析についてためになりました。

横浜市立横浜商業高校 吉田 信幸 先生

評価方法をもう少し詳しく説明してほしかった。

横浜市立横浜商業高校 本杉 幸江 先生

生徒に身近な「縁日」を題材としている点は良いと思う。

学科を問わず行えるよう配慮されていると思うが、専門学科としての商業科の生徒にとっては物足りないのではないか。1年生向きである。経営分析も取り入れた中・上級編の開発が望まれる。

「マーケティング」の授業の中で展開するのが適切であろう。また、商品開発や、プレゼンテーション能力の育成と組み合わせる実施するのがよいと思う。

横浜市立横浜商業高校 加藤 佳嗣 先生

時間的にも、内容的にも充分ねられた講座でした。ビジネスの初歩を遊び感覚で学習し、発表でコミュニケーション能力の向上をはかるなどノウハウが非常に参考になりました。

神奈川県立藤沢高校 鈴木 豊男子 先生

講師の方がとても分かりやすく解説して下さり、よく理解することができた。

神奈川県立愛川高校 染谷 隆史 先生

「生きた経済学」の学習ができた。生徒にとっても今までの授業では得られなかった体験ができ授業効果が大きいことが期待できる講座であった。

神奈川県立相模原総合高校 山本 正人 先生

とても勉強になりました。ありがとうございました。

東京都立町田工業高校 清水 光久 先生

ワークシートを使ったり、アシスタントに見てもらったりしないと、一人では授業を完遂するのが難しそうだ。

東京都立日野高校 竹澤 美江子 先生

勉強になりました。授業のなかで実施したいと思っています。

千葉県立鶴舞桜が丘高校 押本 欣彦 先生

とても有意義な講習でした。

神奈川県立綾瀬西高校 茂泉 俊夫 先生

とてもよくできているプログラムと思います。ポイント等もよくわかりました。

神奈川県立神奈川総合産業高校 上田 勲 先生

実践的な内容だったので有益だった。

神奈川県立光陵高校 大濱 信宏 先生

3. 今後、学校で先生ご自身が「ビジネス体験プログラム」を実施する予定について

今年度中に実施予定	5人
2年以内に実施予定	0人
機会があったら実施したい	9人
実施する予定はない	0人

4. その他ご意見等

実施に向けて、もし、受講者人数分の生徒用テキスト(1000円)を購入しなければならないのであれば大きな障害になり、実施困難に陥る。

宮城県伊具高校 三浦 浩 先生

出店した業種毎に、販売価格や広告費効果などの競争ができればもっと良かったと思う。自社と他社を具体的に比較できる。

横浜市立横浜商業高校 本杉 幸江 先生

(先生がプログラム実施に際して)テキストの使用が条件とのことですが、6時間程度の授業のために一人1000円を徴収することは困難ですし、教材費で生徒の人数分購入することも難しいです。

横浜市立横浜商業高校 加藤 佳嗣 先生

忘れないうちに、一度授業等で実施したいと思うが、公立高校では費用の面で、生徒の負担が大き過ぎることがネックになる。テキスト代が300円~500円程度ならば、かなりハードルが低くなると思われるのが残念である。

神奈川県立藤沢高校 鈴木 豊男子 先生

生徒に対して実施する際、時間配分が少し厳しいかなという感じはあります。

神奈川県立愛川高校 染谷 隆史 先生

ファシリテータとしての教員の役割や姿勢を考えさせる講座であり密度の濃い研修でした。一人でも多くの生徒が「起業家」マインドを持って歩むことを期待したいと思う。

神奈川県立相模原総合高校 山本 正人 先生

この他にも株式の疑似体験や実際の企業をモデルとした起業体験ソフトなども興味があります。

神奈川県立綾瀬西高校 茂泉 俊夫 先生

経済の知識が少ない人にとって、活動をさせていく時のポイントをわかりやすく書かれている指導書があればいいかと思います。

神奈川県立神奈川総合産業高校 上田 勲 先生

6-3 第二回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について〔開催日程 12月26日、27日〕

1. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」を受けてみようと思われた理由（重複）

起業家教育に興味がある	5人
授業に使いたい	14人
自治体の要請	0人
その他	1人（教頭先生からの要請）

2. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」全体を通しての感想

ファシリテーションの重要性を痛感しました。

千葉県立銚子商業高校 宮内 輝久 先生
「総合実践」の中で17年度授業を展開していただき、今回の講座へ参加し全体の流れが理解でき、たいへん参考になりました。

千葉県立一宮商業高校 高宮 健樹 先生
ファシリテーションという講義手法、発表に対する質疑の仕方が参考になった。

千葉県立多古高校 佐藤 英治 先生
ソフト自体もおもしろかったが、ファシリテーションによる短時間での意思決定も参考になった

千葉県立佐原高校 萩原 明彦 先生
クライアントとして体験しておもしろかったです。教員側として実施するには、少々、質問の方法など練習が必要だと思います。

千葉県立勝浦若潮高校 西宮 昭則 先生
大変、疲れしました。何回も繰り返し学習していくと自分なりに全体像が見えると思いました。

千葉県立松尾高等学校 荒牧 正知 先生
充実した2日間でした。プログラムそのものの扱いはそんなに難しいものではなく、授業者の進め方（ファシリテーション）の大切さがわかりました。

神奈川県立霧が丘高校 関 明 先生
全体的に早いペースだったので内容的に十分に理解するのが難しかった。

神奈川県立大師高校 山本 亨 先生
とてもテンポがよく、楽しく受講することができた。屋台の業者から一般企業への考え方をつなげるための技術、知識などを講師用として身につけなければならないと思った。

静岡県立島田商業高校 立石 和宏 先生
興味深い内容であり、講座を受講していて楽しかった。本格的に導入するとしたらプレゼンテーションの質問や評価についての方法に時間が掛かると判断する。

静岡県立島田商業高校 石間 義久 先生
教員と生徒の両面を体験でき、とても勉強になりました。

東京都立桐ヶ丘高校 佐藤 和彦 先生
プログラムのねらいが単にコンピュータでシミュレートするだけでなく、友人とコミュニケーションをとりながら進めていくところにあることがよくわかりました。大変勉強になりました。

多古町立多古中学校 今井 康雄 先生

とてもゲーム性の高いソフトウェアを活用することで子ども達の興味を高める工夫がなされており、大変勉強になりました。また、ファシリテーションの有効性、発展性について考える良い機会となりました。

多古町立多古中学校 君塚 安弘 先生
授業で扱えるようにと考え、研修に参加した。わかりやすく説明していただいたので、十分に理解できた。講師(指導者)としてのテクニク的なことは少し練習が必要だと思った。

多古町立多古中学校 山本 一利 先生
展開方法など大変参考になった。

千葉県立千葉商業高等学校 山崎 衡 先生

3. 今後、学校で先生ご自身が「ビジネス体験プログラム」を実施する予定について

今年度中に実施予定	1人
2年以内に実施予定	7人
機会があったら実施したい	6人
実施する予定はない	0人

4. その他ご意見等

単なるビジネスゲームとしてではなく、きちんとしたファシリテーション技術を身につけて利用していきたいと思います。

千葉県立銚子商業高校 宮内 輝久 先生
Yatai 版以外の起業家教育のカリキュラムを体験してみたい。

千葉県立多古高校 佐藤 英治 先生
評価をだすために講師が発表者に質問しているがグループ同士で質問させあってもよいと思った。

千葉県立佐原高校 萩原 明彦 先生
ぜひ、授業で体験できるようにしたいと考えています。

千葉県立勝浦若潮高校 西宮 昭則 先生
(Yatai 版の画面が)もっと生徒レベルで楽しいものだと良いと思います。ワークシートに商品の名前など必要項目を記入させてから実施しても良いかと思います。

千葉県立松尾高校 荒牧 正知 先生
授業をうまくすすめる上では(教師側が)起業することについてや、経済活動について知識を身につけなければならないと思いました。そのような内容の研修も受けられたらと思います。

神奈川県立霧が丘高校 関 明 先生
実際の「企業新入社員研修」の内容に近いものでビジネスマナー講座や他のビジネス体験プログラムを検討している。

神奈川県立大師高校 山本 亨 先生
来年度も導入を予定しているがどのタイミング、教科(科目)で行うか検討中である。

静岡県立島田商業高校 石間 義久 先生
Yatai 版からバージョンアップした「企業版」のプログラム作成をお願いします。

東京都立桐ヶ丘高校 佐藤 和彦 先生
中学校での実施は少ないと聞いています。今後、中学校での実施がありましたらその感

想などを聞かせてほしいです。

多古町立多古中学校 今井 康雄 先生
たいへん興味深く参加していて感心させられることの多い有意義な研修となりました。
この研修を生かし、ぜひ機会を作って実践したいと思います。

多古町立多古中学校 君塚 安弘 先生
非常によくできたソフトだと思います。中学生にとってはやや高度な部分もあるかと思
いますが、昨年実施した様子を見ていても十分に考え、集中して取り組んでいました。

多古町立多古中学校 山本 一利 先生

6-4 第三回「ビジネス体験プログラム講師養成講座」について

[開催日程 平成18年1月5日、6日]

1. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」を受けてみようと思われた理由 (重複)

起業家教育に興味がある	1人
授業に使いたい	1人
自治体の要請	1人
その他	0人

2. 「ビジネス体験プログラム講師養成講座」全体を通しての感想

大変良かったと思います。

愛媛県立小松高校 高橋 一美 先生
問題解決能力の必要性を感じることができました。

愛媛県立三島高校 中嶋 和孝 先生
丁寧にわかりやすく教えていただきありがとうございました。

愛媛県立大洲高校 稲積 俊英 先生

3. 今後、学校で先生ご自身が「ビジネス体験プログラム」を実施する予定について

今年度中に実施予定	3人
2年以内に実施予定	人
機会があったら実施したい	人
実施する予定はない	人

4. その他ご意見等

このソフトで勉強した後、さらに上級レベルにチャレンジできるものがほしい。

愛媛県立大洲高校 稲積 俊英 先生

7. 新聞掲載記事

- 2005年7月25日 日経産業新聞 「起業家の育成法 学校教員に伝授」
- 2006年2月11日 三河新報 「パソコンで屋台切り盛り 会社経営を擬似体験」
- 2006年2月14日 愛三時報 「ゲーム感覚で経営を学ぶ」